私の街こまつ
速いは近い つながる小松
THE KOMATSU CITY COUNCIL NEWS

議会だより

2026
11.1
NO.223

＼Topic!／
令和7年度決算を認定



Contents

9月定例会 …… 2
初日質疑 …… 3
市政Q&A
代表質問・一般質問 …… 4
追加質疑 …… 14
予算決算常任委員会総括質疑… 15
常任委員会　審査報告 …… 18
特別委員会　調査報告 …… 21
議決結果 …… 22
活動ピックアップ…… 23

市議会HP　マチイロ

撮影　小松大谷高等学校写真部　1年　舟津（ふなつ） 大翔（ひろと）さん　撮影日 10月10日

9月定例会

会期〈9月1日～10月2日〉

9月1日　開会

市長提出議案

予算案　3件
条例案　6件
その他議案　7件

初日質疑（2人）
9日　代表質問（3人）
一般質問（3人）
10日　一般質問（6人）
11日　一般質問（5人）
17日　市長提出追加議案

予算案　2件
その他議案　1件

追加質疑（3人）
予算決算常任委員会総括質疑
18日～24日　各常任委員会（分科会）
25日　特別委員会
30日　予算決算常任委員会
10日2日　閉会

議員提出議案　6件

※議案等の採決結果（P22参照）

条例案等をチェック

（P20参照）

市長から提出のあった条例案やその他の議案については、各常任委員会で審議されました。

予算案をチェック

（P18参照）

市長から提出のあった予算案については、予算決算常任委員会で審査されました。

令和8年度9月補正予算

一般会計	補正額	10億3,748万円
特別会計	補正額	1億1,562万3千円
合　計	補正額	11億5,310万3千円

一般会計の累計
588億5,269万9千円

全会計の累計
1,169億8,202万2千円

決算をチェック

（P18参照）

令和7年度決算については、予算決算常任委員会で審査されました。

令和7年度決算（歳出）

一般会計	549億359万円
特別会計	
国民健康保険事業	89億7,537万円
介護保険事業	102億6,614万円
公債管理	64億7,983万円
産業団地事業	2億3,284万円
後期高齢者医療	21億4,897万円

企業会計	
水道事業	23億2,537万円
下水道事業	40億6,341万円
小松市民病院事業	120億2,715万円

本会議の討論

（P22参照）

橋本議員から市長提出議案第67号・第70号・第71号、議員提出議案第11号に対し、反対討論がありました。

木下議員から請願第1号の不採択に対し、反対討論がありました。

議員提出議案をチェック

（賛否はP22参照）

議員から提出された議案のうち意見書については、可決された意見書を、内閣総理大臣をはじめ、関係機関に送付しました。

議案第7号	交通事故等による被害を受けた胎児に係る法整備についての意見書
議案第8号	「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産への2030年登録に向けた「温泉文化」の保護・継承等への支援及び発信を求める意見書
議案第9号	オウム真理教（現Aleph・ひかりの輪・山田らの集団）に対する観察処分の更新等を求める意見書
議案第10号	医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の改正趣旨を踏まえた支援策の確実な実施を求める意見書
議案第11号	国の予算編成見直しに当たり必要な対応を求める意見書
議案第12号	社会福祉施設職員等退職手当共済制度における保育所等に対する公費助成の継続を求める意見書

本会議初日質疑

生活応援プレミアム付商品券の発行についての議案1件が上程され、本会議初日に質疑が行われました。

初日質疑

生活応援プレミアム付商品券発行費について



新田（にった） 寛之（ひろゆき）
議員

動画でチェック

Q 第1弾の販売状況、利用状況は。

A 6月24日から8月31日まで販売を行い、販売率は速報値で約74%。利用状況では、8月15日までに約5億円が利用されており、使用率は約50%。

Q これまでの類似事業の申請率は。

A 令和7年度以降に実施した事業での申請率は、小松トチポが23.9%、働く世代応援自治体マイナポイントが58.1%、生活応援自治体マイナポイントが62.7%。

Q 少額でも利用できるよう額面を1,000円から500円に変更してはどうか。

A 利用者の利便性向上というメリットはあるが、印刷製本に係る経費や取扱店の事務負担などを総合的に勘案し、1,000円券で実施したい。

Q 販売数を世帯ではなく、世帯の人数に変更してはどうか。

A 世帯ごとに購入可能冊数が異なると、制度や事務手続が複雑になる。マイナポイントなどは個人単位で支給している。

Q 取扱店の検索は紙の冊子とそのPDFとなっているが、インターネット上での検索機能を導入すべきでは。

A 市のホームページの仕様変更にコストをかけるよりも、支援する額に充てていきたい。

Q 商品券を紙券だけではなく、電子マネーとのハイブリッドで対応すべきでは。

A 事業全体の費用対効果や取扱店の負担、運用の円滑性などを総合的に勘案すると、一つの事業の中で紙とデジタルを併用するハイブリッド方式で実施することは、現時点では難しい。

◆いい街こまつプレミアム第2弾について



濵口（はまぐち） 淳也（じゅんや）
議員

動画でチェック

Q 初日に議論する場合、最終日に議決する場合、臨時議会を開催する場合など様々な進め方があるが、今回なぜ初日に議決するのか。

A 商品券の印刷などの準備におおむね3か月を要し、利用期間終了後の換金など事業全体の精算完了にはおおむね2か月を要することから、12月に利用開始するために必要な準備期間と年度内の精算に必要な期間を確保するため。

Q 第1弾の商品券事業に参加されなかった小売店や事業者が、今回の第2弾から新たに参加したい場合、申込みの期限はあるか。

A 第2弾の開始を待つことなく、現在も受け付けており、第1弾商品券の取扱店として登録することも可能。募集期間は使用期限と同様で、1月末までを予定している。

代表質問



会派自民
表（おもて） 靖二（やすじ） 議員

代表質問 ― 括質問

小松市・加賀市自治体病院連携
小松市民病院
未来の医療を担う

動画でチェック

◆定住促進制度について

Q 建築費が約1.5倍高騰しているが、30、40万円程度の助成金で効果はあるのか。制度拡充はできないか。

A 本市と国の制度を併用することで、最大270万円の補助を受けることができる。また、今年度から住宅面積や転入条件を緩和し、制度の利用対象を拡大した。今後も建築費や金利の動向を注視し、柔軟に対応していきたい。

◆粟津駅について

Q ラウンドアバウトが完成し好評を得ている。今後、東西間の自由通路、駅西広場、駅西遊休地の活用等の課題があるが、今後の年次と見通しは。

A 今年度は駅舎前の広場や照明灯、バスシェルターを設置する。駅東側の工事は令和9年1月末の完成を予定している。令和9年度から自由通路、令和10年度から駅西広場の工事に着手し、令和11年度末の事業完了を目指す。

◆消雪装置について

Q 今議会に市道路消雪施設関連条例が上程されている。受益者負担金が倍額となっている理由と、消雪装置の維持経費が与える影響は。

A 道路消雪新設工事に係る地元負担金は、33年間見直しが行われていなかったことから、資材費や人件費の高騰を踏まえて再算定した。また、採択基準を10項目に整理し、数値化した。公平・適正な負担を求めるため、負担金と採択基準を明確化する条例案を上程したものである。消雪施設の関連経費は、33年前と比べ、人件費が約2倍、鉄や銅が約5倍となり、建設費、維持管理費ともに大幅に増加している。

◆未来型図書館について

Q 同図書館の政策理念は。年間約5億円に迫る維持経費であるが、高騰した場合の対応は。

A 未来型図書館は、①世代を問わず誰もが安心して過ごせる「みんなの居場所」、②本や情報、展示、体験が結びつく「学びの拠点」、③市民・企業・地域が交流し、新たなにぎわいや活動を生み出す「未来を育む場」の3つの役割を掲げている。

本事業は長期契約となるため、物価や賃金の変動には、事業契約に定める物価スライド等の規定に基づき適切に対応する。また、契約金額等の変更により、議会の議決が必要となる場合は、必要性や財政への影響を説明し、市民サービスと財政負担のバランスを見極めながら対応する。

◆小松市・加賀市自治体病院連携について

Q 小松市・加賀市の連携に能美市も加わるのか。各病院の役割分担及び将来の病院構想に如何なる影響を与えるのか。

A 能美市とは自治体間協定には至っていないものの、役割分担は以前から進んでいる。小松市と加賀市は、両病院を存続させることを前提に、高難度手術や救急搬送の役割分担、診療科の再編・集約化について協議を進める。

協議会の設置を契機に、加賀市、能美市及び市内の民間病院を含む南加賀医療圏全体で連携する。今後の医療需要や各医療機関の機能分化を踏まえ、当院に必要な機能を明確化するとともに、病床数を含む適正な施設規模を精査する。その内容を新病院の設計に反映していく。

◆市観光交流センター条例について

Q Komatsu九（ナイン）、ザ・マッツなど駅隣接の諸施設を一括管理する条例であるが、その意図するところは。

A 駅周辺の施設を1つのエリアとして捉え、各施設の役割を生かしながら、利用者の利便性向上や施設間の回遊、連携イベント、情報発信などを進め、駅周辺全体のにぎわい創出につなげる。

動画は QR コードからどうぞ



小松志士の会
宮西 健吉（みやにし けんきち） 議員

代表質問 ― 括質問

1997年7月にオープンしたこまつドーム どうすべきか？

動画でチェック

◆こまつドームについて

Q 施設の概要は。また、建設決定の経緯や費用は。

A 南加賀地域の発展のため、広域での大規模集客や加賀温泉郷の活性化などを期待され、全国的にも珍しい全天候型大規模多目的施設として、平成9年に開設。国等の補助金も活用し、建設費、用地取得費等で約76億円をかけて整備された。

Q 屋外グラウンドの概要は。

A 平成25年度に1億7,000万円余りをかけて、通年での利用が可能な人工芝グラウンドとしてリニューアル整備を行っている。

Q 駐車場の概要は。また、民地が占める割合は。

A 第1から第3駐車場及び臨時駐車場兼広場があり、約1,000台の駐車が可能。総面積の約20%が民地である。

Q 施設の運営状況や利用者数は。

A 利用料等の収入は約2,600万円で、市からの指定管理委託料は約3,900万円となっている。利用者数は、コロナ禍以降は回復傾向にあるものの、昨年度は約13万6,000人にとどまっている。

Q 修繕費はいくらになるのか。

A 膜屋根の張り替え60億円超、人工芝の張り替え5億円程度、LED化改修3億円程度、空調設備23億円程度であり、合計90億円程度。

Q こまつドームを存続するのか、解体するのか、市南部の拠点整備をどうするのか。市長の見解は。

A 当面は一時的、応急的な対応により、現状の機能維持を図っていく。一方で、長寿命化改修は難しいとの判断の下、今後はこまつドームやエリア一体の在り方についても構想していく必要がある。その中で、学校再編の考えの下、南部地区における新たな学校施設として、ドームの敷地や一部機能を生かすことができないかを教育委員会と研究をしている。学校としての活用は一つの例であるが、市議会や市民の皆様の意見を聴きながら、今後とも本施設の在り方について、研究、検討を加速していきたい。



今後どうすべきか

◆今年度10年目を迎えるカブッキーランドについて

Q 入場者数の推移は。

A 開設直後の平成30年度は約8万9,600人、コロナ禍の令和3年度は約3万600人、令和7年度は約5万3,300人であった。

Q パスポートの利用者数は。

A 約1万4,700人前後で推移。

Q 売上げの推移は。また、割合は。

A 平成30年度は約2,260万円、コロナ禍の令和3年度が約800万円、令和7年度は約1,500万円。全体経費に対する利用料収入の割合は、決して十分なものではないと捉えている。

Q 利用者の居住地と形態は。

A 令和7年度は、市内54%、市外46%であった。また、利用する子供の87%が未就学児である。

Q 令和7年度は約7,355万円が投資されている。経営者として、これをどう考えているのか。利用料を上げる考えは。今後の運営についての見解は。

A まずは人件費を含む施設維持管理費の精査をしっかりと行い、支出の抑制を図っていき、その上で、利用料金の在り方についても十分に検討を進めていきたい。

Q 休日保育を子育てスマイルステーションに委託できないのか。

A 一般来館者と休日保育の利用児童が同一のスペースに混在すると、児童の安全確保に懸念が生ずることなどから、現況ではなかなか難しいと考えている。

代表質問



自民党こまつ
川崎 順次（かわさき じゅんじ） 議員

代表質問 ― 括質問

市立小中学校体育館への空調整備を早急に進めよ!!

動画でチェック

◆宇宙バイオ最先端技術を活用した新産業の創出と企業誘致について

Q 宇宙バイオテクノロジー企業であるGHアドバンサーズ社の谷口敬太社長との特別座談会が開催され、同社が誇る超高効率の光合成微生物培養装置はあらゆる分野での活用が期待できるとお話しされていた。地元の中小企業や一次産業との連携や、向本折地区や串工業団地などに最先端宇宙関連企業を誘致できないか。

A GHアドバンサーズ社、慶應義塾大学大学院と連携し、地元ものづくり企業とのマッチングやネットワーク拡大、新技術の実証実験などを支援する。向本折地区や串地区では、航空・宇宙産業などの企業誘致を進め、関連企業や人材、技術が集まる産業クラスターの形成につなげる。

◆11月にも創設される防災庁について

Q 空港周辺への防災局誘致及び誘致後の周辺まちづくりについて、9月3日の市長と知事との懇談で、知事はどのようなお考えだったのか。

A 小松空港は空路・陸路のアクセス力に加え、小松基地や市民病院など災害時に必要な機能が集積している地域であるため、防災局の地方拠点として望ましいエリアと考えている。県と連携して誘致活動を続けるとともに、小松空港周辺が新たな成長拠点となるよう取り組む。

◆木場潟公園東園地「こどもの国」構想について

Q 第2期工事の進捗状況は。北陸最大規模の全天候型の広場や遊具を備えたこどもの国を整備できないか。

A 第2期整備は、来年度から工事に着手し、令和12年度の供用開始を予定している。木場潟東園地へのいしかわ子ども交流センター小松館の移転について、引き続き石川県と協議する。

◆市内の無電柱化計画について

Q 通学路を優先的に検討していただきたい。

A 無電柱化に加え、道路側溝改築による路肩の拡幅や、電柱の民地への移設など、通学路の早期安全確保に向けた対策を進めている。地域の要望も踏まえ、通学路対策を優先して進める。

◆緊急事態を想定したシェルターの設置について

Q 武力攻撃への備えはもちろんのこと、あらゆる緊急事態から市民の命を守るために整備すべき。

A 既存施設の活用を中心に、屋内退避や一時的な退避を確実に行える体制を整える。地下施設の整備については、これから国と協議したい。また、住宅の耐震化についても、国や県に補助制度を強く働きかける。

◆災害時のペット同行避難について

Q 現在どのような検討が進められているか。

A 市の指定避難所53か所でペットの受け入れを可能としており、避難所ではペットの飼育エリアを設定する。避難所カルテにもペットの避難先を明記し、飼い主への必要物資の備蓄や、しつけ、清掃などの協力を呼びかけ、安心して避難できる体制を構築する。

◆小松市立小中学校体育館への空調整備について

Q 近年の猛暑により、子供たちの安全確保、体育の授業や部活動の実施、学校行事、加えて災害時の避難所としての機能を確保する観点から、体育館への空調整備を早急に進める必要がある。市立小中学校体育館への空調整備について早急に対応していく考えは。

A 市立の全小中学校、義務教育学校の体育館を対象に、令和9年度からの5年間を基本に空調整備を集中的に進める。年間8～10校程度を目安に整備し、防衛省・文部科学省の補助制度などを活用する。施工業者や技術者の確保、工事費の上昇などの課題に対応しながら、スピード感を持って整備を進める。

動画は QR コードからどうぞ

すべての小中学校の体育館へ計画的な空調整備を求める



木村（きむら） 賢治（けんじ）
議員
一括質問

動画でチェック

◆全小中学校体育館へ空調整備を

Q 猛暑で体育の授業ができない。災害時も避難環境が整っていない。国は、空調設置目標を2031年に前倒しした。本市の整備計画も国の目標に沿いつつ、全小中学校体育館への空調整備を計画的に進めてほしい。

A 全小中学校及び義務教育学校の体育館を対象に、2027年度からの5年間を基本とし、空調整備を集中的に進めていく。この方針は国の目標とも一致し、年間8校から10校を目安に、設計と工事を計画的に進める。

Q 学校再編を理由に、体育館空調整備が遅れることがあってはならない。

A 学校再編の構想づくりは進めるものの、体育館空調整備は喫緊の課題であることから、先送りすることなく整備を進める。

Q 統合・新設の体育館は空調整備を前提にしてほしい。

A 体育館を新設する際は、空調設置を標準化する。

Q 再編の見直しにより、空調を入れた学校が数年後廃止されたとしても、投資を無駄にしない整備手法の調査研究をお願いしたい。

A 移設、再利用の可能性も考慮した空調方式を選択肢の一つとして検討し、長期的に有効活用できる整備を進めていきたい。

Q 空調のない避難所について、当面の暑さ対策をどう考えるか。

A 未整備の避難所は、災害協定によるスポットクーラーの提供や、空調のある教室の開放で対応する。

◆行方不明児童への対応

Q 小中学校での行方不明時の対応強化と訓練の徹底とともに、学童や保育施設にも学校と同様の体制を広げるべきではないか。

A 防災行政無線等の活用を含めて対応するフローを各学校へ通知し、対応訓練の実施も新学期に合わせて再通知している。また、学童では、学校と同等のマニュアルを作成している。保育施設では施設間で対応にばらつきがあるため、対応の均一化と強化に向け、各施設長会で協議していく。

中山間地域における農用地保全と地域運営の在り方について



深田（ふかた） 博智（ひろとも）
議員
一括質問

動画でチェック

◆農村RMOについて

Q 農村RMOとは何か。

A 農林水産省では、複数の集落が協力し機能を補完して、農用地保全活動や農業を核とした経済活動と併せて生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組を行う組織を農村RMOと定義している。

Q 農村RMOの必要性は。

A 農家、非農家を問わず、多様な地域の関係者が連携した農村RMOは、その地域の特性を生かしたこれからの地域づくりを持続的に取り組む上で重要であると考える。

Q 波佐谷地区を含む松東地区を農村RMOのような組織形成のモデル地区にできないか。

A 波佐谷地区で立ち上がっている「せたに未来ネットワーク」を中心とした住民参加型の地域づくりについて、他の農山村地域に先駆けて活発化してきていると捉えている。

せたに未来ネットワークからは、まず1に地域の現状調査（担い手・課題・資源の把握）、2に地域ビジョン策定、3にプロジェクト事業を小規模から実施、4に輪を広げ徐々に展開していく形で進めていくと聞いている。また、市の2040年ビジョンとの整合性を図りながら、「子供たちが帰ってきたいと思える地域」を将来像に掲げ、せたにミライカイギを開催し、波佐谷地区の5年後（2031年）を見据えた地域ビジョンと具体的な方策を11月に策定すると聞いている。

これらの活動が着実に実を結び、波佐谷地区から松東地区全域へと活動の輪が広がることで、農山村地域全域の波及と模範となることを期待している。

人口減少が進む農山村地域では、買物、通院、見守りなど、日常の移動や生活サービスが脆弱化してきており、住民が安心して暮らし続けるための基盤が失われ始めている。日常生活に密着したサービスを地域内で安定的に提供できる組織の存在は不可欠であり、一日でも早く、より多くの中山間地域でこのような組織が速やかに設立され、地域のための活動が活発化されることを願っている。

一般質問

すべての子どもが安心して就学できる切れ目のない支援
市民の命と暮らしを守るがん検診・がん患者支援について



斎藤（さいとう） 和美（かずみ） 議員

一括質問

動画でチェック

◆5歳児健康診査を起点とした支援体制について

Q 二次健康診査後の判定と結果の取扱いについて。

A 本市では、専門性の高い健診を行うため、2段階方式を採用している。継続的な支援が必要と判定された児童については、発達支援センターえぶりぃ、小松市民病院、小松こども医療福祉センターにつなげている。

Q その他の支援機関との連携について。

A 言語や精神発達面での指導が必要な場合には、小松市民病院を、粗大運動や微細運動といった運動機能に関する指導が必要な場合には、小松こども医療福祉センターを紹介している。

Q 入学に向けた連携体制について。

A 就学先を検討するための就学相談における資料として活用することも有効と捉えている。こども家庭部と教育委員会が連携しながら、ライフステージに応じた切れ目のない支援と対応に取り組む。

◆がん検診による予防・早期発見

Q 女性のがん検診で選べる検診への検討について。

A 乳がん検診と骨密度測定をセットにし、受診の機会につながる取組を実施している。また、60歳以上で病院検診を希望される方への対応として、医療機関の受入体制を確認し、病院検診の対象年齢の拡大を検討していきたい。

Q がん患者への支援について。

A 小松市民病院では、南加賀医療圏における地域がん診療連携拠点病院として、がん患者やその家族が抱える様々な不安や悩みに応じる「がん相談支援センター」を設置している。年齢を問わず、生活や就労に関する相談にも無料で対応している。そのほか、患者同士が交流し、療養生活の体験や不安な気持ちを語り合う場として、院内にがん患者サロンを設けている。がん患者が孤立することなく、同じ経験を持つ方との交流を通じて気持ちを整理し、治療や社会復帰に向けた力を得られるよう支援している。

小松空港周辺に産業展示・多機能ホールの建設を
中学校部活の地域展開について



村中（むらなか） 洋（ひろし） 議員

一括質問

動画でチェック

◆産業展示・多機能ホール建設について

Q 小松空港周辺のまちづくり構想は。また、新たな交流・産業・防災拠点として、市・県・経済団体と産業展示館建設を進める考えは。

A 世界に開かれた臨空エリアとして、小松市のまちづくりにおける最重要エリアに位置づけている。産業観光やアリーナ機能、災害時の1.5次避難所など多様な活用方法を視野に、県や民間企業と連携しながら協議していく。

◆中学校部活の地域展開について

Q 地域展開の状況と課題は。

A 現在、16種目53団体、1,032人が地域クラブに参加し、文化部は9月から地域展開を開始。平日の地域展開を見据えた、実施団体と指導者の確保や育成、地域展開後の生徒の放課後の在り方づくりなどが主な課題である。

Q 指導者バンクの登録制度は。また、部活指導者と地域クラブ指導員の待遇の差異はあるのか。

A 指導者バンクの構築予定はない。また、待遇については、大きな格差はない。

Q 地域クラブの生徒への市独自の活動支援制度は。

A 6月補正予算で地域クラブ活動の参加費支援を措置している。

Q 課題への今後の具体策は。

A 放課後改革のガイドラインを令和8年度中にお示しできるよう、策定に取り組んでいる。

◆循環型社会に向けたリユースの推進について

Q ウリドキ㈱のサービスの利用実績は。また、ウリドキ㈱との協定は機能しているか。

A 令和7年度は、査定依頼が113件、うち買取査定は33件であり、増加傾向にある。本事業は循環型社会の形成に向けた取組の一つとして、一定の成果につながっているものと考えている。

Q 循環型社会への新たな取組は。

A 民間事業者や各種団体の自主的な取組を尊重しながら、リユースの普及啓発を継続していく。

動画は QR コードからどうぞ

一般質問

窓口の改善と橋梁の安全性



なかにし　はじめ
中西　肇
議員

一括質問

動画でチェック

◆市役所窓口の改善について

Q 「ふれあい」「あんしん」などを冠した組織や窓口があるが、抽象的で業務内容が分かりにくい。今後、組織や窓口の名称の見直しや組織改編の考えはあるのか。

A 窓口の業務内容を分かりやすく伝えるために、案内表示、総合案内の充実に努める。組織の改編や名称の変更は、今後の研究課題である。

Q 総合案内及び窓口強化について、今後の推進策を伺う。

A 窓口一元化やワンストップサービス実現には、対応する職員が複数の業務、制度を熟知することが一番の課題である。

お見送りデスクや外国人サポートデスクなどから段階的に窓口一元化を進めてきた。今後は、総合案内の工夫や総合的な窓口一元化に向けて課題を整理しながら検討を進める。



◆橋梁の安全点検について

Q 橋梁の現状及び点検状況、今後の対応方針について伺う。

A 小松市が管理する橋梁は473橋。架設時期が明らかな橋梁のうち、建設後50年を経過する橋梁は41%を占めている。平成27年度から定期点検を実施しており、橋梁長寿命化修繕計画に基づき予防保全に取り組んでいる。今後も、橋梁の長寿命化を図り、道路交通の安全・安心を確保し、効果的な維持管理に努める。

Q 小野町橋の通行規制の経過と今後の対応について伺う。

A 令和7年度の定期点検で、小野町橋の橋脚上流側の水中部に損傷を確認。上流側の荷重を緩和するための予防的な安全措置として、片側交互通行及び大型車両の徐行規制を実施。通行規制期間中は、パトロールの実施、24時間監視カメラの設置により橋梁の変状を確認している。現在、対策工事の実施設計等を進めており、年度内に対策工事を完成させ、早期の通行規制解除を目指している。

記録的豪雨を想定した複合災害



うめだ　としかず
梅田　利和
議員

一括質問

動画でチェック

◆記録的豪雨を想定した複合災害

Q 小松市の防災体制・事前対策について。

A 本市の地域防災計画では、同時または連続して2つ以上の災害が発生し、それらの影響が複合化することを想定し、予防対策、応急対策、復旧対策について定めている。現在、石橋川排水区の導水路工事などの整備は計画的に進めているが、既存の水路の大半は、今回の8月27日の大雨の雨量をスムーズに流せる整備はできていないのが現状である。大雨の際には、浸水しやすい箇所を中心にパトロールし、必要に応じて通行止め措置などを行っている。ポンプ場などの重要施設の機能維持に関しては、自家発電機を備えている。今後とも複合化する災害に備えて、関係機関との連携強化や実践的な訓練の実施などを通じて、対応のレベルを高めていきたい。

Q 地域防災力・避難所の機能強化について。

A 町内会が地域の公民館などを事前に届出避難所として登録し、発災時には地域で活用していただくことで、町内会と市において、避難状況や支援の要請の情報を緊密に共有することができると考えている。避難所の機能強化については、指定避難所は2万1,000人を収容できる体制を確保しており、2万2,000人分の食料1食分と飲料水1日分の備蓄を確保している。また、マンホールトイレ、携帯簡易トイレ、災害協定による民間事業者のトイレカーなどを組み合わせて活用し、衛生的な環境の確保に努める。

Q 災害後の生活再建について。

A 令和6年能登半島地震や令和4年8月大雨の際、部局横断でチームを編成し、迅速な対応を行った。この体制は非常に有効であったと捉えており、市域で大規模災害が発生した場合には、この経験を生かして相談や手続を一元化する被災者向けの窓口を設置し、被災者に寄り添った生活再建、支援を行っていく。

一般質問

小松市の財産である「小松空港」を守り抜くために



吉本 慎太郎（よしもと しんたろう）議員

一括質問

動画でチェック

◆10月から運用される冬ダイヤにおいて、小松―羽田便が2往復減。1日6往復となり、わずか4年で半減となった。小松市の財産である「小松空港」はかつてない危機を迎えている

Q 小松市が率先して「空港が面白い」と思わせる仕掛けづくり、来場者増加のための集客展開を図るべき。

A 物産展やイベントの開催などが行われている。空港利用者に限らず、多くの皆様が小松空港を訪れ、楽しい、面白いと思えるような空港周辺エリアの一体整備を官民が緊密に連携し、推進していきたい。

Q 愛称を一般公募しては。小松空港及び小松市を表現する愛称の命名は知名度の向上、発信力の強化、地域愛の醸成につながるのではないか。

A 地域が誇れる最適な名称であると考えており、愛称を提案する考えはない。

Q 空港周辺エリアの開発進捗状況は。

A エアターミナルビルにおける基本構想の策定や、安宅新産業団地への進出企業の事業所建設など、小松空港シン都心整備が進んでいる。民設民営のアリーナ構想は、建設が断念されて以来、土地利用が停滞しているが、集客に資する施設が必要だと思う。防災庁の地方拠点の誘致については、国や県に対する要望活動を続けている。



空港そのものの魅力度アップが必要

◆8月27日の大雨を「体感」して

Q 車水没事案に遭遇し、交通誘導する中で、短時間豪雨への対応の脆さを感じた。これまでの経験則を生かし、各校下・各地区の冠水ポイントに、危険を感知・発信する装置を設置していくべきではないか。

A 現在、市内4か所の高架下アンダーなどに、浸水を感知した場合に発光するポールを設置している。今回、車両が立ち往生した箇所も含め、道路冠水ポイントにこのポールを増設し、対策を講じていきたい。

梯川水系緊急治水対策プロジェクトの進捗



片山 瞬次郎（かたやま しゅんじろう）議員

一括質問

動画でチェック

◆梯川水系緊急治水対策の進捗

Q 進捗状況と計画との差異は。

A 国と県と常に情報共有を図っており、令和13年度整備完了に向け順調に進んでいる。

Q 内水氾濫への治水効果は。

A 九竜橋川排水機場のポンプ増強工事により、排水能力が約1.5倍増強され、九竜橋川周辺の浸水被害が軽減された。

また、石橋川排水区では、導水路工事が全長660mのうち559mが完成し、遊水地整備に伴う用地取得もおおむね90%が完了した。

◆中京圏・関西圏からの鉄道アクセス向上

Q 観光客の利便性のためにも、特急列車がIRいしかわへ乗り入れする可能性はないか。また、市長の思いは。

A 特急列車の乗り入れについては聞いていないが、新幹線の敦賀延伸により、中京・関西圏とのアクセスに支障が生じている現状には危惧している。

◆ふるさと応援寄附金と企業版ふるさと納税について

Q 現時点での状況は。

A 令和7年度はポータルサイトを追加し、返礼品を557品目追加（年度末時点1,286品目）。

Q 返礼品の品名増加と手応えは。

A 一定の手応えは感じているが、目標水準「令和8年度7億円」にはまだ乖離がある。

Q 企業版ふるさと納税の現状は。

A 令和7年度は30件5,340万円と前年より約2,000万円増となった。

現行制度は令和9年度末までの特例措置と定められている。

◆学校体育館（避難所に供する）の空調設備計画と財政的対応

Q 学校の統廃合と本整備プランの考え方は。

A 学校再編に向けた構想づくりは進めるものの、全小中学校・義務教育学校の体育館を令和9年度から5か年を基本に集中的に整備していく。

Q 財政的な対応への考え方は。

A 防衛省補助のほか、文部科学省補助や緊急防災・減災事業債など、必要な財源の確保に取り組む。

動画はQRコードからどうぞ

一般質問

地震や豪雨などからの災害に強いまちづくりについて



橋本（はしもと） 米子（よねこ）
議員

一括質問

動画でチェック

◆住民の不安に対応できる自治体づくりについて

Q 災害対策には市の職員が必要だが、行政改革で民間委託が進んでいる。一般行政職員の充足率は。

A 職員定数518人に対し、充足率は75.9％。有事の際に幅広い業務を担う正規職員が必要であり、適正な人員確保に努める。

Q 消防職員の充足率は。

A 職員定数140人に対し、充足率は96.4％。

Q 指定避難所53か所の空調設備設置率と今後の計画は。

A 整備されているのは9か所で、設置率は17%。令和9年度から5年間を基本として、全市立小中学校・義務教育学校の体育館空調整備を集中的に進める考えである。

Q 上水道管路の耐震化率と向上策は。

A 令和7年度末時点の耐震化率は、基幹管路で34%、その他管路で94%。基幹管路の耐震化を重点的に進めるため、今後10年間の整備計画を策定し、国の補助事業を活用して計画的に実施していく。

◆小松市民病院事業について

Q 新病院の建て替えが議論されている。新病院の病床数の規模はどのようになるのか。

A 基本計画では、一般248床、感染症4床、結核6床の計258床。

Q 市民病院には数年前まで精神病床が26床あった。新病院で廃止する理由は。

A 患者数の減少、派遣常勤医師の削減により、令和元年10月から休止している。南加賀医療圏の他の病院で入院需要を十分に確保できていることなどから、新病院には精神病床を整備しない方針。

◆小松市平和施策について

Q 小松市は非核平和小松市宣言を行っている。国に非核三原則の堅持を求めていただきたいと思うが、市長の考えは。

A 戦争がもたらした悲劇と平和の尊さを次世代へ確実に伝えていくことが大切であり、私自身も恒久的な世界平和の実現を強く望んでいる。



国に非核三原則の堅持を求めていただきたい

町内会DXとデジタル防災で地域課題の解決を



吉柴（よしば） 文悟（ぶんご）
議員

一問一答

動画でチェック

◆デジタル防災の備え

Q 危険な状況下で市民がスマホ等で防災情報を確認する場合、設定が簡単で即座に導入できる市推奨のツールは何か。

A 「こまつ防災アプリ」を提供している。複数のツールを活用するとともに、平時からアプリや公式LINE等を登録し、いざという時に情報を受け取れる備えが重要である。



いざという時に備えてスマホで防災情報

◆町内会負担の軽減

Q 町内会の班長が行うチラシ等の仕分け・配布の負担を減らすため、デジタル閲覧希望世帯にはPDFや閲覧リンクを提供できないか。

A 町内会で各世帯の意向を確認した上で、配布物のデジタルデータ化やリンク先の提供は可能。紙の削減については、ペーパーレスの観点から関係各課と協議して進めていきたい。

◆外部CDOとDX推進

Q 生成AIの進展を踏まえ、行政ツールの内製化などDXを迅速に進めるため、外部CDOなど専門的な知見を持つ人材を活用すべき。

A CDO設置の予定はないが、職員研修や庁内連携を進め、デジタルに強い職員の提案を取り込みながら、市役所全体のDX体制を強化していく。

◆小松大学再編と専門学校

Q 若い世代が小松で学び、定着するよう、公立小松大学の学部の再編や、専門学校等の誘致など、学びの選択肢と受け皿を拡充せよ。

A 18歳人口の減少を踏まえると、専門学校の進出は非常に難しいと考える。一方、地域や時代のニーズに応える人材育成は重要であり、公立小松大学では、既存学部の枠組みの中で、時代に即した教育の充実やカリキュラム強化に取り組むと聞いている。

一般質問

芦城公園と小松っ子ごちそうチケットと空き家



濵口（はまぐち） 淳也（じゅんや） 議員

一問一答

動画でチェック

◆ストック再編整備事業について

Q ストック再編整備事業として進める芦城公園の再整備について、花見や桜はどうなるのか。

A 来シーズンのお花見は、調査など大規模な掘削などが伴わないことから、安心して楽しんでいただける。桜の老木化対策においては、今回実施する樹木調査で生育状況を確認して、植え替えが必要な桜を順位づけし、長く花見ができるよう段階的な植え替えを実施したいと考えている。



Q 公園内のトイレ整備について。

A 新たなトイレ施設については、設置場所の見直しを行い、温水洗浄つきの洋式トイレを標準としたいと考えている。ただし、オストメイト対応トイレについては、未来型図書館のトイレ配置などを考慮し、配置計画を検討していく。

◆小松っ子ごちそうチケットについて

Q 登録時のデジタル手続の手間に関する不満が多く、途中で諦めた家庭も少なくない。今後については。

A まだまだ登録率、申請率が低く、予算に残りがあるので、現在10月末としている実施期限を、冬休みを含む1月末まで延長したいと思っている。まだ御利用いただいてない方にしっかりと御利用いただけるように期間も延長し、また周知徹底も図っていきたい。

◆空き家について

Q 市内の空き家総数は2,000件を超えている。空き家所有者に対する各種対策制度や成約率の高い空き家バンク（成約件数648件／累計登録件数722件）の周知徹底を。

A 来年度には、3年に一度行う第6回空き家実態調査を予定している。最新の空き家実態を把握するとともに、空き家所有者へ空き家バンクなどの各種制度を周知し、利用につなげていきたいと考えている。

災害対策・介護事業（ケアマネ）・地域公共交通計画



東（ひがし） 浩一（こういち） 議員

一問一答

動画でチェック

◆災害時避難施設、環境整備

Q 新たに創設する届出避難所とは。

A 町内会等から事前に市へ届け出てもらい、災害リスクの有無等の条件を満たす場合に登録する。発災時に市が避難者を把握できるメリットがある。

Q ドローンの飛行ルート、離着陸場は。

A 物資配送の既存飛行ルートは10ルートほどある。被災時は、飛行ルートの設定が無くても運用可能。

Q トイレカーの自治体保有について。

A 民間事業者のトイレカー活用を優先する。他自治体の動向を注視し、必要性を検討する。

◆介護支援専門員（ケアマネジャー）

Q ケアマネジャーの現状は。

A 本年6月調査では132名（特養・老健の入所施設従事者除く）。利用者数は3,421人で、ケアマネジャー1人当たり約26人。ケアマネジャーの高齢化が顕著で、将来的な人材確保が大きな課題。

Q シャドーワークへの対応は。

A ごみ出しや通院時の送迎など、ケアマネ業務の範囲を超えた法定外業務が過度な負担となっている現状を課題として認識している。ケアマネ業務を分かりやすくまとめたチラシの作成は、周知啓発に効果的と考える。事務負担の軽減を図り、ケアマネジメント業務に注力できる環境づくりに取り組む。

◆【誰もが、気兼ねなく、スマートに、お出かけできる　こまつ】での松東地区公共交通の取組について

Q 南部エリアの実証運行の状況は。

A 8月から運行エリアや時間帯を拡大し、予約対応を改善したことで、利用者数は2倍以上に増加した。利用状況や満足度、経費などを検証し、今後の継続や他地域での実証運行などを判断する。

Q 地域懇談会の開催、運行体制の見直しは。

A 松東地区の現状や課題を共有し、早い時期に開催する。乗合タクシーと乗合ライドシェアの併用など総合的に判断し、令和9年春からの運行内容の改善を検討している。具体的には、五国寺町・正蓮寺町への運行ルートの追加、運行時間や便数の見直し、交通結節点への接続などを検討している。

動画は QR コードからどうぞ

子育て支援の充実へ、0～2歳児の保育料軽減を！



木下（きのした） 裕介（ひろゆき）議員

一問一答

動画でチェック

◆避難所となる体育館の空調整備

Q 防災拠点としての重要性を踏まえ、指定避難所（拠点）となっている市立学校10施設の空調を優先整備してはどうか。

A 5年間での整備に向け、施工時期や代替施設等を調整し、避難所としての役割も考慮して、早期整備計画を策定する。

Q 災害時の停電に備え、停電時でも稼働できるガス式空調の導入を検討すべきではないか。

A 停電対応型のガスヒートポンプ空調の導入を検討している。

◆保育料の負担軽減について

Q 過去2度提案した0～2歳児の保育料完全無償化について、物価高や子育て世帯の負担感を踏まえ、改めて実施する考えは。

A 無償化により入所希望が増え、保育士不足が深刻化する懸念があるため、まずは保育を必要とする家庭の利用機会確保を優先する。

Q 上の子が小学校へ進学すると第2子の保育料が半額対象から外れる同時利用要件について、県内他自治体の状況も踏まえ、見直してはどうか。

A 多子世帯の負担軽減は今後の検討課題と捉え、支援策の効果検証を行い、長期的・幅広い視点で多様な子育てを支援する。

◆小松加賀自治体病院協議会

Q 新たな小松市民病院の設計と南加賀全体の機能分担の協議が並行する中、過大投資を避けるため、主要な機能分担をいつまでに決め、設計へ反映するのか。

A 協議結果が手術室数や病床数などに影響する可能性があるが、新病院建設に関わる協議を重点的に進め、設計の手戻りを防ぐ。

Q 南加賀医療圏を構成する能美市が協議会に参加していない中、南加賀全体の合意形成をどう進めるのか。

A 能美市とは今後も情報共有を行い、地域医療構想調整会議で南加賀全体の合意形成を図る。

Q 小松市民病院と加賀市医療センターがともに救急・産科・小児科などの主要機能を維持する中、機能分担や集約をどう進めるのか。

A 小松市民病院は急性期拠点機能を担う方針で、具体的な機能分担や集約は医療圏の状況を分析し、協議会で検討する。

安宅林に海のプールを



新田（にった） 寛之（ひろゆき）議員

一問一答

動画でチェック

◆新産業創出及び高度人材育成に関する協定について

Q 3団体が集まって何をするのか。

A 本協定は、宇宙分野等の新産業創出による産業振興と、高度な教育プログラムによる人材育成を目的に、GHアドバンサーズ㈱、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科、小松市が連携するものである。GHA社は技術の実装・実験、慶應SDMは人材育成や社会実装支援、本市は実証フィールドの提供や行政手続きの調整、地元企業とのマッチング等運営支援を担う。締結後は、次世代の高度産業人材育成プログラムの構想や、本市独自のスタートアップ政策のブラッシュアップを進める。

Q その先には何が待っているのか。

A GHA社は、地場企業との取引を進め、市内に自社工場を設置し、量産体制の確立を目指す。同社の先進技術と地元ものづくり企業、スタートアップ企業等を結び付け、慶應SDMによる高度人材育成と併せて、新産業クラスターを構築する。

◆安宅林に海のプールを

Q 安宅海岸の「遊泳注意」看板の意味は。遊泳禁止なのか、自己責任なのか。

A 砂浜の減少に加え、施設・監視体制など海水浴場としての環境が整っていないため、安全上、遊泳を控えてほしい。海水浴場ではないことが伝わるよう、看板表記を工夫する。

Q 防風林の中に自然あふれるプールを設置してはどうか。

A 安宅林は、原則として保安林を解除できない第1級地に区分され、プールなどの施設は設置できない。

Q ATAKA TERRACE周辺に水遊びできる場所や噴水、足湯（足水）等を設置してはどうか。

A 小型の子供用プール等の継続・充実を図るとともに、安宅の自然を感じられるよう、利用者ニーズを踏まえた取組を検討する。



安宅海岸の防風林の中のプール（生成AIにて作成）

本会議追加質疑

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営事業の特定事業契約について
をはじめとする議案3件が追加で上程され、質疑が行われました。

追加質疑

未来型図書館の建設運営に係る契約について



高野（たかの） 哲郎（てつろう） 議員

動画でチェック

Q 未来型図書館の建設運営を担う「こまつ未来型図書館パートナーズ株式会社」が設立されたが、構成する企業の位置付けと役割は。

A 代表企業は、SPCへの最大の出資者であり、事業全体の統括やリスク管理等を行う。構成企業2社は、SPCに出資するとともに、主要な業務を担う。協力企業8社は、各々の専門分野においてSPCから直接業務を受託または請け負う。

Q 昨年12月議会で、建設費105.3億円のうち、市の実質負担は約30億円との説明を受けたが、その額は今でも変わっていないのか。

A 現時点で大きな変更はないが、引き続き国と連携し、財源確保に努める。

Q 国からの補助はどのように入ってくるのか。また、今年度分の国からの補助はあるのか。

A 年度ごとに予算措置や交付手続きが必要で、自動確約はされない。今年度の補助内示額は、防衛省が約4,120万円、国土交通省が約8,570万円。国土交通省の事業対象は、未来型図書館を含む小松中央地区であり、曳山の保存・展示施設や、来年度以降はアーケードの整備についても活用する予定。

Q 物価上昇や金利の上振れに対する対応は。

A SPCが金融機関から長期借入するのではなく、市が国庫補助金や市債等で資金調達を行い、建設費は各年度の出来高に応じて支払う。金利上昇のみで契約額が増額されることはないが、市債には影響するので、適切な財政運営に努める。

Q 多くの図書館を視察してきたが、管理運営費の設定は割高感があり、15年一括の契約も長いと考える。開館後の利用者数・利用者の満足度のチェックは議会としても大きな関心を持っている。今一度運営費についての市長の見解は。

A 行政サービスの質の向上のために必要な投資であると考える。来館者数や要求水準などを総合的に評価し、改善が図られない場合は、必要に応じてサービス対価の減額等を適切に行う。



施設外観　※今後の詳細設計等により変更の可能性あり



木下（きのした） 裕介（ひろゆき） 議員

動画でチェック

◆PFI事業におけるリスク管理について

Q 本事業は、SPCが15年間施設の維持管理・運営を担う中で、SPCや主要構成企業が経営破綻や撤退により事業継続困難となる可能性もある。その際、契約解除規定はあるが、図書館サービスの継続は別の課題となる。そこで、事業継続困難となった場合、誰が代替事業者を確保し、決定までの施設運営を担うのか。また、誰が追加費用を負担するのか。さらに、代替事業者を確保できない場合、市直営も含めたサービス継続策を想定しているのか。

A SPCが事業全体の履行責任を負い、構成企業が継続困難となれば代替企業を選定する。費用は原則SPC側の負担で、市に追加の財政負担は生じない。直営も選択肢としつつ、代替事業者確保を基本に、市が財務・履行状況を継続的にモニタリングする。



橋本（はしもと） 米子（よねこ） 議員

動画でチェック

◆令和12年10月に完成を目指す未来型図書館等複合施設について、こまつ未来型図書館パートナーズ株式会社との仮契約を経て、今回の補正で整備費及び15年間の運営費の計174億4,500万円が提示されている

Q 整備費の内容について問う。

A 総額105億3,000万円で、基本設計・実施設計費、建設費のほか、什器・備品やシステムの整備費、工事監理等に要する費用を含む。補助金や市債を活用し、市の実質負担額は30億円程度に抑えていくことを基本とする。

Q 管理運営費の内容について問う。

A 総額69億1,500万円で、開館準備費が約3億7,600万円、令和12年度から15年間の維持管理運営費が年平均で約4億3,600万円。財源は、現時点では市の一般財源を基本とする。

動画は QR コードからどうぞ

予算決算常任委員会総括質疑

令和8年度9月補正予算

会　派　自　民



村中洋 委員

動画でチェック

◆旧老人福祉センター千松閣解体費

Q 千松閣の解体費の内訳と工事内容は。

A 内訳は、解体工事費1億3,000万円、工事監理業務費200万円。工事内容は鉄筋コンクリート地上2階・地下1階の解体で、基礎杭の引き抜きも含む。工期は10か月を見込み、年度をまたぐため、繰越明許費も同額で計上している。

Q 地元町内会への説明は。

A 解体業者決定後、施工計画・工程計画を作成する際に、地元町内会への周知についても指導する。

Q 敷地面積は。

A 公簿上の面積は約1.3ha（約1万3,000㎡）ある。

Q のり面の地滑り調査結果は。

A 令和5年10月に簡易解析を実施。その結果、建物の直下を含む範囲の地盤にまで変状の恐れがあり、シート養生による雨水の侵入防止措置を行うとともに、令和5年12月末で営業を休止。その後、施設の老朽化や利用者数なども総合的に判断し、令和6年3月末に閉館した。それ以降、現在まで地盤の大規模な崩落などには至っていない。

Q 跡地を九谷焼の花坂陶石地や、花坂産業団地の一部として活用する考えは。

A 現時点では跡地の活用は未定であるが、花坂地区の産業団地開発に係る事業用地の一部として活用することも選択肢の一つとして検討している。

自民党こまつ



吉村範明 委員

動画でチェック

◆まちなか賑わい推進費

Q 事業内容と予算の内訳は。

A 小松駅周辺の公共施設を株式会社こまつ賑わいセンターによる一体的な管理運営へ移行し、地域コーディネーターを配置することで、新たな人の流れや活動を生み出すことを目的としている。予算の内訳は、コーディネーター1名の人件費175万円、活動経費100万円などである。

Q にぎわいビジョンと施策は。

A ビジネス・教育・観光で人々が往来・交流するミッドタウンを目指している。若い世代の関心が高いアーバンスポーツなどのイベントの誘致・開催や、商店街での駅ビアや屋台事業など、にぎわいが面的に広がる取組を増やしていきたい。

◆駅周辺公共施設維持管理費

Q 事業内容と予算の内訳は。

A 夜間の安全管理と衛生管理の強化を図るため、小松駅南側トイレの出入口ドア設置に約370万円、駅西広場などの照明灯のLED化更新に約600万円、防犯カメラ増設分のリース代に約30万円を計上。

Q 中央商店街を含めた公衆トイレの確保を願う。

A 駅南側のトイレの利用時間は、午前7時から午後10時までに変更するが、駅北側と駅前立体駐車場1階のトイレは引き続き24時間利用可能。

令和7年度決算

会　派　自　民



村中洋 委員

動画でチェック

◆予防接種費

Q 高齢者の定期予防接種の種類と対象者は。

A インフルエンザ、新型コロナウイルス、肺炎球菌、帯状疱疹の4種類のワクチン接種を実施している。それぞれ年齢や一定の障害要件を満たす方を対象とする。

Q 高齢者の予防接種の実施状況は。

A 令和7年度の接種状況は、対象者30,957人に対し、インフルエンザワクチンが接種者18,966人、接種率61.3%。新型コロナウイルスワクチンが接種者6,908人で接種率22.3%となっている。

Q 予防接種の個人負担額と他市との比較は。

A 令和7年度は接種費用が増額となったが、物価高騰支援地方交付金を活用し、自己負担額を据え置いた。インフルエンザワクチン1,000円は県内で３番目に安価であり、新型コロナウイルスワクチン2,100円は県内で最も安価である。

Q 接種率向上への取組と今後の対応は。

A 感染状況に応じた接種が行えるよう、今年度からインフルエンザ及び新型コロナウイルスワクチンの接種開始を2週間前倒して10月1日とする。市ホームページ等で周知するほか、下水モニタリング等により感染拡大の兆候を察知し、市公式LINEやお茶の間ガイドを通じた注意喚起や、ワクチン接種への理解促進に向けた啓発を行う。



吉柴文悟 委員

動画でチェック

◆公衆街路灯補助金

Q 令和7年度決算における補助金の執行状況と、昨今の電気料金高騰を踏まえた今後の町内会への電気代支援方針について伺う。

A 247団体に対し、2,885万6,400円を交付した。電気料金の実績に対し、町内会の場合は8割を補助している。夜間の犯罪防止や通行の安全確保のため、今後も引き続き町内会の負担軽減に努めていきたい。

Q 1灯あたり約2万円かかるLED防犯灯の設置・交換工事費が町内会の重い負担となっている。導入から約10年が経過し一斉更新期を迎える中、今後の市としての支援策や対応方針について改めて伺う。

A 平成23年度から照明器具の現物支給を行っている。新たな工事費補助の導入については、既に自費等で交換を終えた他町内会との公平性に欠けるおそれがあることなどから、現時点での新たな支援策導入は考えていない。

小松志士の会



濵口淳也 委員

動画でチェック

◆令和7年度の決算

Q 市税収入の増加要因解析と市の財政力指数は。

A 主な要因は、新幹線開業に伴う固定資産税の増加が約5億円、賃金上昇に伴う個人市民税の増加が約8.1億円。令和6年度に実施された定額減税の影響による一時的な減少が約5億円あったが、市税全体の実質的な増加額は約10.8億円となった。令和7年度の財政力指数は0.66で、公表されている令和6年度の全国平均は0.49。本市より財政力指数が大きい自治体は1,741自治体中442あり、おおむね上位から30%以内をキープしている。

Q 実質公債費比率は。

A 令和7年度決算で10.1%と、令和6年度決算より0.6ポイント減少している。

Q 基金（市の貯金）は前年度から約8.4億円増加して約41.4億円となり、将来負担比率は前年度から6.2ポイント減少して92.7%となっている。今後、金利上昇による将来負担にも十分に目を配りながら、小松市の未来にどのような投資を行っていくのか、市長の思いは。

A 市長就任以来、好循環のまちづくりを掲げ、未来への投資を通じて市民サービスを充実させることが重要と考えて財政運営に取り組み、市税収入・基金残高の増加や市債残高の減少など、着実に財政基盤を強化することができた。

財政指標の数値だけでは市民の幸せを測ることはできず、都市価値の向上を図ることが重要であると考える。都市価値を向上させ、市民の幸せと持続可能なまちの実現を目指すため、小松空港シン都心整備や芦城公園周辺の再整備、未来を育む学びのリビルド、南加賀の地域医療の強化など、Komatsu９プロジェクトを軸に、まちづくり5.0として未来への投資を加速させる。積極的な投資により、財政指標に影響が出ることも見込まれるが、中長期的視点に立った財政運営を力強く進めていきたい。



木村賢治 委員

動画でチェック

◆通学路整備費

Q 3月の総括質疑にて、当初予算7,050万円が補正で1,850万円へ約74%減額となったことを取り上げた。当初11路線の予定が7路線とされたが、決算額5,720万9,000円で、どう整備が行われたか。

A 令和6年度の繰越予算も含め、側溝改築や区画線の設置などについて28か所を実施した。

Q 繰越しも活用し、減額の逆風の中、予定を倍以上も上回る28もの路線の整備をやり遂げていただいた。3月時点で着手できていなかった1か所は、令和8年度の事業として着手されているか。

A 令和8年度予算で着手し、既に完了した。

Q 危険箇所は継続した事業で着実に減っていると考えてよいか。

A 危険箇所は着実に減ってきていると考える。

Q 今後、予算が減った年も、子供たちの安全を守る一貫した姿勢で通学路整備を進めていく考えか。

A 国の予算の増減に左右されることなく、柔軟に対応していく。仮に整備の取り残し箇所があった場合でも、優先的に次年度の予算で工事に着手し、早期に完成させる。

自民党こまつ



吉村範明 委員

動画でチェック

◆花坂地区産業団地整備費

Q 決算の内訳と用地取得の現状及び地盤の強度は大丈夫か。

A 土地1筆の購入費と手数料などで450万円であり、面積による取得率は全体の約27%となっている。沈下量を継続して観測しており、地盤は安定していることが確認できている。

Q 企業誘致の目標年は。

A 用地交渉が難航している状況であり、現時点で完成までのスケジュールは未定であるが、全ての用地取得完了に向けて全力で取り組む。

◆市税

Q 市税決算額の内訳と増加の要因は。

A 個人市民税が65億6,200万円余、法人市民税が20億3,900万円余、固定資産税が75億3,700万円余、諸税が20億7,800万円余。賃上げによる給与所得の増加や、製造業を中心に企業業績が堅調に推移したこと、産業団地の造成や宅地の増加に伴う固定資産税の増収などが主な増加の要因。

Q 法人市民税の今後の展望は。

A 産業団地の着実な整備と企業進出により、市税や交付金等を含めた収入は、マクロでの試算で約7～8億円程度増収可能と見込んでいる。引き続き、好循環のまちづくりを進めていきたい。

無　会　派



木下裕介 委員

動画でチェック

◆決算審査意見書

Q 代表監査委員が、情報開示を最小限にする、根拠のない監査用資料を作成するといった監査への姿勢を問題視した背景と、そこに込めた思いは。

A 監査の趣旨に沿った対応や結果を共有し業務改善につなげる取組が不十分だった。監査を指摘回避でなく、組織全体の改善の機会と捉えてほしい。

Q 執行部はこの指摘をどう受け止めるか。

A 監査対応の形骸化を重く受け止め、市民への説明責任を十分果たし、組織文化の転換に取り組む。

Q 指摘を踏まえた今後の取組は。

A 5バリューを周知徹底し、誠実で能動的な監査対応と監査委員事務局との連携を重視し、内部統制や組織運営の改善につなげる。



片山瞬次郎 委員

動画でチェック

◆予防接種費

Q 高齢者用肺炎球菌感染症の定期接種対象は。

A 接種日に65歳の方及び60～64歳で心臓・腎臓などの特定の障害に該当する方が対象。

Q PCV20ワクチンへの変更と免疫効果は。

A 国の審議会において、予防効果の持続性が長いワクチンであり、変更が妥当であると判断された。

Q 定期接種の機会を逃した方への対応は。

A 国において決められた制度の下、対象者が機会を逃さないよう、周知や接種勧奨を工夫する。

Q HPVワクチンの接種率、個別通知の状況は。

A 令和7年度の初回接種率は、定期接種が39%、キャッチアップ接種が49%。小学6年生と高校1年生に案内を送付し、周知に努めている。



橋本米子 委員

動画でチェック

◆デジタル地域通貨活用事業費及び働く世代応援自治体マイナポイント事業費

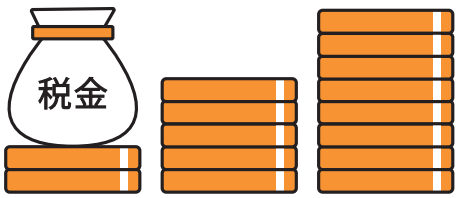
Q 2つの事業費の内容と申請率の結果は。

A デジタル地域通貨ポイント「小松トチポ」は、16歳以上を対象に2,000円相当のポイントを付与するもので、申請率は23.9%。自治体マイナポイントは、19歳～64歳以下を対象に5,000円相当のポイントを付与するもので、申請率は58.1%。

◆令和7年度国民健康保険事業特別会計決算

Q 保険税率引上げによる令和7年度の国保税の増収について。

A 被保険者数は減少したが、保険税の引上げや加入者の所得の増加により、前年度決算と比べて4,086万9,000円の増額となった。



常任委員会　審査報告

予算決算常任委員会

議案第54号　令和8年度小松市一般会計補正予算（第2号）について

■補正予算額について

物価高の影響が続いていることから、市民生活の支援として生活応援プレミアム付商品券の第2弾を発行するもので、その財源として国からの重点支援地方創生臨時交付金2億2,600万円を活用するものです。

第1弾の購入率は約75%とのことですが、執行されなかった分については、他の計画を立てるなどして交付金を有効に活用してほしいとの意見がありました。

■生活応援プレミアム付商品券発行費（632,000千円）

プレミアム付商品券の第2弾の発行に係る費用であり、長期化する物価高の状況を踏まえ、年末年始に向けた、市民生活の下支え及び地域経済の活性化を図ることを目的として実施するものです。

第1弾に引き続き、プレミアム率は50%とし、1冊あたり3,000円分を2,000円で販売するものと、1冊あたり15,000円分を10,000円で販売するものの、二種類の商品券を発行するとのことです。

1世帯あたり、販売価格10,000円を上限として購入することができ、利用期間については、年末年始を含む、12月から1月末頃までを予定しているとのことです。

本事業は、商品券を12月から販売開始し、また、今年度末までに精算を終える必要があり、準備にいち早く取り掛かる必要があることから、本議案については、初日に議決を求めるものであるとのことです。

第1弾の販売場所について、販売開始から二週間後からは一か所に集約されたことから、市民がより購入しやすいように、今後、販売場所及び期間について、配慮してほしいとの意見がありました。

取扱店について、第1弾で加入していない店舗や、新しくオープンした店舗に対し、事業途中でも加入できる点について、広く周知してほしいとの意見がありました。

商品券について、従来の紙チケットに加え、電子チケットも併せて取り扱いができるように、今後、研究してほしいとの意見がありました。

議案第55号　令和8年度小松市一般会計補正予算（第3号）について

■小松空港活性化推進費（4,250千円）

ルクセンブルク経済交流事業への負担金及び北陸エアターミナルビルで開催されるSORA旅フェスタ2026開催への補助金です。

カーゴルックス航空の貨物輸送を維持するため、小松空港の貨物ターミナルの拡充・整備を検討してほしいとの意見や、小松ー羽田便の減便に伴い、空港の利用者や来場者を増やすための活性化策が必要との意見がありました。

■旧老人福祉センター千松閣解体費（132,000千円）

令和6年3月末に閉館した千松閣の解体に係る費用です。煙突等にアスベスト含有があり、その除去作業も工事内容に含まれているとのことです。

解体後の跡地活用だけでなく、千松閣が担っていた高齢者福祉の代替となるようなレクリエーションなど、ソフト面の充実を求める意見がありました。

■都市公園ストック再編費（11,500千円）

未来型図書館等複合施設の整備に併せて、芦城公園再整備計画の策定を行うものであり、トイレの新設や園路照明の増設等を検討しているとのことです。

現在の芦城公園内の園路は、車いすの方や足が不自由な方にとっては歩きにくいため、砂利の部分を見直し、バリアフリー化を図ることで、全ての人が安心して訪れやすい公園や図書館へ整備してほしいとの意見がありました。

議案第67号　令和7年度小松市歳入歳出決算の認定について

■ふるさとこまつ応援寄附金（364,367千円）

個人版が3億4,300万円、企業版が2,100万円であったとのことです。個人版は、目標額6億円には届かなかったものの、マーケティング推進チームの新設やCMOの登用により取組を強化し、新規返礼品の開発を進めた結果、返礼品の品目数や取扱事業者の増加につながったとのことです。

目標額の達成に向け、取組の結果を寄附額を上げることで示してほしいという意見や、他自治体では組織体制

の強化に取り組んでいることから、マーケティング推進チームの更なる人員増強を求める意見がありました。

■監査委員費　委員報酬（1,560千円）

監査委員2名の報酬です。

監査委員の職務の重要性を考慮し、代表監査委員の報酬を増額してはどうかとの意見がありました。

■防災体制強化費（18,964千円）

防災備蓄品の購入や避難所等の管理、自主防災組織の育成・訓練等に係る費用です。

近年、大雨や地震などの災害が発生していることから、災害対策に係る予算の拡充を求める意見や、土砂災害防止対策の早期実施について、県へ働きかけるよう要望がありました。

■不妊・不育治療支援費（19,608千円）

人工授精などの一般不妊治療や、体外受精・顕微授精などの生殖補助医療に対する助成を行うものであり、助成を受けた方のうち、81名から妊娠の届出があったとのことです。

制度を利用した方から喜びの声があったので、今後もぜひ続けてほしいとの意見がありました。

■福祉イノベーション推進費（3,089千円）

介護施設等における介護ロボットやICT機器の導入を支援する事業で、令和7年度は9事業所に助成を行ったとのことです。導入事例として、利用者のベッドの下にセンサーを設置し、睡眠状態や起き上がりを検知して職員に通知するシステムや、服薬管理を行う機器を導入したとのことです。

ロボットやICT機器が進歩し続ける中、介護職員の負担軽減による労働環境の改善につなげられるよう、事業の周知に努めてほしいとの意見がありました。

■学校給食費（600,245千円）

学校給食の食材費等です。

少子化が進む中、児童生徒数の減少によって予算額がおのずと減っていくことが目に見えるが、子供たちの健全な育成のため、しっかりとした予算づけを望む意見がありました。

■授業支援費（48,442千円）

校務支援システムの運用に係る業務委託や、小中学校教師用の教科書及び指導書の購入等に係る費用です。

一部の委員から、現在採択されている教科書に反対のため、教師用の教科書及び指導書の購入については認定できないとの意見がありました。

■駅周辺公共施設維持管理費（25,288千円）

IRいしかわ鉄道から借りている在来線高架下土地の賃借料や、小松駅・明峰駅・粟津駅周辺の施設管理などに係る費用です。

小松駅前広場でのイルミネーションについて、見直し時期が近付いた際には、市民アンケートなどを実施し、演出内容を現状より一層充実させるよう求める意見がありました。

■修景公園管理費（102,943千円）

市内の公園に対する維持管理費や、都市公園のトイレのLED化工事などに係る費用です。

町内会が管理する公園について、人手不足などにより、管理が困難な地域があることから、今後、継続的に管理できるような体制へ見直しを行ってほしいとの意見がありました。

■通学路整備費（57,209千円）

通学路交通安全プログラムに基づき、側溝の改良や防護柵の設置など、通学路の安全対策工事を行うものです。

子供たちの安全確保につながる重要な整備であり、今後も事業を推進してほしいとの意見がありました。

議案第68号　令和7年度小松市公営企業会計決算の認定について

■在宅医療収益（39,238千円）

令和2年度に開設した訪問看護ステーションの収入です。主に精神疾患やがん疾患の方への訪問看護を行っており、令和7年度の利用者は77名とのことです。

在宅で医療を必要とする患者にとって、訪問看護は重要なので、ぜひ頑張っていただきたいとの意見がありました。

■医療器械購入費及び備品購入費（1,840,183千円）

MRIや電子カルテシステム一式等の購入費であり、通常の医療機器の更新・改修だけでも毎年約1億5,000万円を要するとのことです。高額な医療機器については、耐用年数に応じて追加で予算要求を行っており、今後は新病院建設時の移設費も考慮して購入時期を検討するとのことです。

医療技術が発達する中、高額な機器や備品の購入・更新が進むと予測されることから、直近数年の経費の推移を資料に記載するよう求める意見がありました。

報告第14号　健全化判断比率及び資金不足比率の報告について

令和7年度決算に基づく健全化判断比率は、実質公債費比率10.1%、将来負担比率92.7%と、前年度より各々0.7ポイント、6.2ポイント改善しているとのことです。また、公営企業会計の指標となる資金不足比率は、いずれの会計においても資金不足がないため、該当なしとの報告がありました。

また、令和7年度決算について、一般会計の市債残高は17億円の改善との報告がありました。

今後大型事業が控えていることから、この状況を堅持しながら、しっかりした財政運営をしてほしいとの意見がありました。

総務企画常任委員会

■議案第70号　特定事業契約について

小松市未来型図書館等複合施設整備・運営事業について、特別目的会社である「こまつ未来型図書館パートナーズ株式会社」と特定事業契約を締結するものです。

本事業は、未来型図書館等複合施設の整備、維持管理及び運営を、令和27年3月31日までの期間にわたり行うものであり、事業者は公募型プロポーザルにより決定され、9月14日に仮契約を締結しているとのことです。

今後は、設計・建設工事を進めるとともに、蔵書や収蔵品の移転など、開館に向けた準備を進め、令和12年10月の開館を目指すものです。

議会では、令和7年12月の附帯決議により、毎年の事業報告を求めているところです。契約締結後も、当委員会において定期的かつ長期間にわたりきめ細かな報告を行うこと、また、不測の事態が生じる前に議会へ報告し、議会とともに対策を講じることを求める意見がありました。

■自動運転バスの事故原因調査結果について

8月18日に小松駅西口広場で発生した、自動運転バスの縁石接触事故の原因について、調査結果の報告があったものです。車両の動きに対して運転士が手動介入を行ったものの、適切な操作に至らず、結果として縁石に接触したものです。今後は、再発防止策として、運転士を対象に複数のパターンを想定した手動介入の訓練を実施するとともに、自動運転システムの制御面の改善を図るとのことです。

5月と今回の2度の事故は、それぞれ原因が異なることから、再度事故が発生した場合には、今後の事業の在り方について再検討すべきではないかとの意見や、レベル4運行については、万全の対策を講じ、慎重に進めるよう求める意見がありました。

■令和8年6月実施　小松市職員採用候補者試験結果について

採用予定者数38名程度に対し、受験者数110名、合格者数34名、合格倍率3.2倍であったとのことです。

技術職の受験者が昨年度に引き続きゼロであったことから、募集方法を工夫するなど、幅広い人材確保策を検討してほしいとの意見がありました。

■広報こまつのリニューアル方針について

広報こまつは、これまでどおり毎月発行し、紙媒体での配布も継続する一方、紙面については、令和9年4月発行分から、毎月16ページの構成を、年8回は8ページに縮小した上で、SNSなどのデジタルを積極的に活用した情報発信のハイブリット化を進めるとのことです。

毎月発行を継続することについては評価する声がある一方、市民のニーズを的確に把握し、掲載内容を精査した紙面構成にしてほしいとの意見がありました。

福祉文教常任委員会

■議案第59号　小松市病院事業の設置並びに管理条例の一部を改正する条例について

主な改正は、精神病床26床の廃止です。利用実績の減少と、現状で南加賀医療圏にある他の病院の病床数が十分に確保されていること、そして今後の入院需要の見通しなどを総合的に検討したことから、廃止に至ったとのことですが、精神科外来については、引き続き診療を行うとのことです。また、精神疾患がある方に身体疾患の治療が必要になるという、いわゆる精神科身体合併症への対応についても、他の病院と連携して治療を行い、公立病院として求められる役割を果たしていくとのことです。

精神科身体合併症の受入については、患者の立場に立って対応してほしいとの意見がありました。

■議案第60号　小松市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例について

保育所や認定こども園において、従業員による児童対象性暴力等を防止するために、特定性犯罪前科の有無の確認、服務規律のルール作りや、環境整備等の措置を講じることを事業者に義務づける法律が制定されます。これに伴い、市の条例に必要な措置を講じる旨の規定を整備することが主な改正です。

■第8回福祉ふれあいフェスティバルinこまつ2026について

障がいの有無にかかわらず、子供から高齢者まで様々な人が集い、相互の理解を深めることを目的に、11月8日（日）、こまつドームにおいて開催されます。今回は、手話歌や福祉活動に積極的に取り組まれている、地元アイドルグループをゲストに迎え、手話体験とミニライブを開催するとのことです。また、こまつエコフェスティバルとの共同開催とすることで、新たな層の集客と各々の活動の相互理解を図るとのことです。

共同開催は初めての試みであり、相乗効果が期待できる反面、お互いが打ち消されることのないよう努めてほしいとの意見がありました。

その他として、小松っ子ごちそうチケットについて、利用期間の延長を評価する一方で、登録方法が分かりづらいとの声があるので、案内方法を工夫した上で、積極的に周知してほしいとの意見がありました。

経済建設常任委員会

■議案第57号　小松市観光交流センター条例等の一部を改正する条例について

小松駅高架下及びその周辺に位置する、観光交流センター「Komatsu九」や820ステーション、市民交流プラザ、市民公園などについては、管理主体や開館時間等がそれぞれ異なっていることから、利用者にとって分かりにくい状況です。そのため、これらを一つのエリアと捉え、一体的な管理運営により、利用者の利便性を高め、施設間の回遊や連携イベントを促進し、駅周辺全体のにぎわい創出につなげることを目的に、関係条例の改正を行うものです。

当改正に伴い、駅南側にあるトイレについては、現在は24時間利用可能ですが、防犯対策及び衛生管理の観点から、Komatsu九の運営時間に合わせ、利用時間を7時から22時までに変更するとのことです。

■「小松市の新産業創出及び高度人材育成に関する協定」について

小松市、GH Advancers株式会社、慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科の三者が、小松市における宇宙分野等のスタートアップを含む新産業創出と、これを支える高度産業の人材育成を目的として、連携協定の締結を行ったとのことです。

GH Advancers株式会社は最先端のバイオ技術を有する企業であり、今後、新たな産業クラスター形成に向けた取組や、スタートアップ支援・産学官連携事業の取組などを、三者で連携していくとのことです。

■請願第1号　働く者の声を尊重した労働時間法制の実現とILO三者構成原則の堅持を求める意見書を政府に送付することを求める請願について

本請願は、誰もが安心・安全に働き、生活時間を確保できるよう、労働時間の規制を確立するとともに、生産性の向上を両立させることを求める意見書を議会で採択し、国に対して提出を求めるものです。

全ての事業所に対し、労働時間や労働環境において、一律に規制することは難しいと考えられるため、全会一致で、本請願は不採択とすべきものと決した次第です。

特別委員会　調 査 報 告

小松基地・空港対策特別委員会

■在日米軍再編に係る訓練移転について

現時点で、小松基地における訓練計画はないとのことであり、訓練実施の際には、市民の安全・安心を図るため、協定を順守し、これまで以上に安全対策、騒音対策の徹底を求めるものです。

訓練計画については、速やかに情報提供するよう求めました。

■航空自衛隊小松基地に関する令和9年度概算要求の主要事業について

防衛省・自衛隊では、諸外国の航空戦力の近代化等に適切に対応するため、F−15戦闘機の能力向上改修を進めているとのことです。

令和5年度までに改修に係る予算措置を行った20機については、当初、千歳基地に12機、小松基地に8機を令和9年度末までに配備する計画でしたが、改修事業の進捗等を踏まえ、20機すべてを令和9年度から令和11年度にかけて、千歳基地に配備することとなったとのことです。

なお、この20機のうち、令和9年度に千歳基地に配備する2機については、令和9年度から令和10年度にかけて、小松基地周辺空域において試験を行うため、一時的に小松基地に展開する予定とのことです。

9月定例会の議決結果

■全会一致で議決された議案

	議案名		議決結果
予算案（3件）	第54号	令和8年度小松市一般会計補正予算（第2号）	可決
	第55号	令和8年度小松市一般会計補正予算（第3号）	〃
	第56号	令和8年度小松市介護保険事業特別会計補正予算（第1号）	〃
条例案（6件）	第57号	小松市観光交流センター条例等の一部を改正する条例について	〃
	第58号	小松市道路消雪施設新設工事負担金徴収条例について	〃
	第59号	小松市病院事業の設置並びに管理条例の一部を改正する条例について	〃
	第60号	小松市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例等の一部を改正する条例について	〃
	第61号	小松市火災予防条例の一部を改正する条例について	〃
	第62号	小松市認可地縁団体の印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例について	〃
その他議案（6件）	第63号	工事請負契約について	〃
	第64号	財産の取得について	〃
	第65号	指定管理者の指定の変更について	〃
	第66号	専決処分の承認を求めることについて	承認
	第68号	令和7年度小松市公営企業会計決算の認定について	認定
	第69号	令和7年度小松市公営企業会計未処分利益剰余金の処分について	可決
市長提出追加議案（1件）	第72号	令和8年度小松市一般会計補正予算（第5号）	〃
議員提出議案（5件）	第 7 号	交通事故等による被害を受けた胎児に係る法整備についての意見書	〃
	第 8 号	「温泉文化」のユネスコ無形文化遺産への2030年登録に向けた「温泉文化」の保護・継承等への支援及び発信を求める意見書	〃
	第 9 号	オウム真理教（現Aleph・ひかりの輪・山田らの集団）に対する観察処分の更新等を求める意見書	〃
	第10号	医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律の改正趣旨を踏まえた支援策の確実な実施を求める意見書	〃
	第12号	社会福祉施設職員等退職手当共済制度における保育所等に対する公費助成の継続を求める意見書	〃
その他案件（1件）		議員の派遣について〔令和8年度ルクセンブルク経済交流事業訪問団（参加）〕	〃

■賛否が分かれた議案

○は賛成　×は反対　退は退席　欠は欠席

	議案名	会派自民								小松志士の会				自民党こまつ			無会派					議決結果
		表 靖二	高野 哲郎	吉本慎太郎	梅田 利和	新田 寛之	東 浩一	村中 洋	吉柴 文悟	宮西 健吉	中西 肇	濵口 淳也	木村 賢治	川崎 順次	吉村 範明	深田 博智	橋本 米子	片山瞬次郎	木下 裕介	斎藤 和美	岡山 晃宏	
その他議案（1件）	第67号　令和7年度小松市歳入歳出決算の認定について	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	認定
市長提出追加議案（2件）	第70号　特定事業契約について	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
	第71号　令和8年度小松市一般会計補正予算（第4号）	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
請願（1件）	第１号　働く者の声を尊重した労働時間法制の実現とILO三者構成原則の堅持を求める意見書を政府に送付することを求める請願	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	不採択
議員提出議案（1件）	第11号　国の予算編成見直しに当たり必要な対応を求める意見書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決
その他案件（1件）	議員の派遣について〔小松空港国際化推進石川県議会議員連盟 ベトナム・タイ・香港訪問団（参加）〕	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	可決

※南藤陽一議長、岡山晃宏副議長は小松市議会運営規約第４条に基づき、会派に所属していません。南藤陽一議長は採決には加わりません。

活動ピックアップ

※議員が参加した行事等の一部を紹介します。

小松市校下女性協議会 議員さんと語る会



開催日　令和8年8月30日(日)

女性協議会との意見交換会を実施しました。行政DXや公共施設活用、窓口改革、介護支援など多岐にわたる貴重なご意見をいただきました。

お寄せいただいた課題の中から、小中学校での緊急地震速報の即時共有や紙配布物削減などについて9月議会一般質問で取り上げ、行政に提示いたしました。

様々な立場の方々から直接お話を聞く意見交換会は、議員活動の原点であり極めて重要だと再認識しました。今後も声を届けてまいります。　（吉柴副委員長）

小松基地航空祭



開催日　令和8年9月27日(日)

小松基地航空祭は9月27日、快晴の下で開催されました。

今年はブルーインパルスの飛来に加え、303飛行隊がF15からF35へ移行する中での合同飛行となり、大きな話題となりました。写真は記念塗装のF35です。

当日は10万人以上が来場し、祝賀会場では市長が共存共栄を語り、市と基地のつながりを改めて感じられる一日となりました。

（濵口委員）

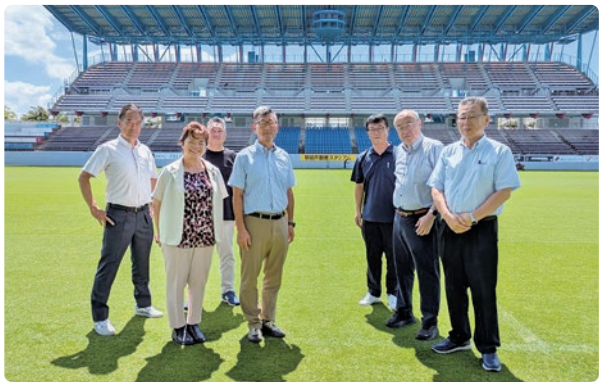
行政視察報告

総務企画 常任委員会



視察先　和歌山県和歌山市、大阪府泉佐野市、京都府向日市
期　間　令和8年7月14日(火)～16日(木)
視察項目
①【和歌山市】和歌山市民図書館について
②【泉佐野市】ふるさと納税について
③【向日市】　共通投票所について

経済建設 常任委員会



視察先　長崎県大村市、佐賀県鳥栖市、福岡県粕屋町
期　間　令和8年8月5日(水)～7日(金)
視察項目
①【大村市】大村市産業支援センターについて
②【鳥栖市】スポーツを核とした地域活性化について
③【粕屋町】AIオンデマンドバスについて

議長の活動紹介



私は、図らずも、昨年度までの全国市議会議長会基地協議会の会長職に替わり、今年度は、在日米軍再編に係る訓練移転先6基地関係市町村議会連絡協議会の会長に就任いたしました。

時を同じくして、防衛省においては、小松基地周辺の騒音区域見直しという本市にとって大変重要な事がこれから行われることとなります。

今後も、国防に関わる情報に注視しつつ、市民の皆様の安全・安心な生活につながる要望等を国や関係機関に対し、しっかりと行ってまいる所存でございます。

<7～9月の主な議長日程>

7月	7(火)	全国市議会議長会基地協議会　第115回理事会
	9(木)	加賀五市議会議長会　第92回定期総会
	10(金)	小松市防火協会創立60周年記念式典
	15(水)	木場潟環境整備促進期成同盟会　総会
	27(月)	在日米軍再編に係る訓練移転先6基地関係市町村議会連絡協議会　総会
8月	4(火)	小松空港の拡充強化に係る合同要望
	9(日)	北陸新幹線建設促進石川県民会議　令和8年度総会
	13(木)	令和8年度全国中学校体育大会出場選手激励会
	19(水)	第14国府分団活動拠点施設移転整備工事　安全祈願祭及び起工式
	20(木)	石川県市議会議長会　第153回定期総会
9月	3(木)	小松・高雄便　就航記念式典
	18(金)	交通安全早朝街頭キャンペーン、交通安全たすき掛け、赤ランプ作戦出発式・巡視
	28(月)	第80回国民スポーツ大会・第25回全国障害者スポーツ大会　小松市選手団壮行会
	30(水)	国道416号小松・勝山間整備促進期成同盟会　令和8年度通常総会

12月 定例会のお知らせ

次の定例会は12月1日から12月22日までの22日間です。　※詳細は議会ホームページをご覧ください。

12月1日(火)	13：30～	本会議	開会・市長説明
9日(水)～11日(金)	9：30～	本会議	一般質問
14日(月)	9：30～	委員会	各常任委員会(分科会)
15日(火)	13：30～	委員会	特別委員会
22日(火)	13：30～	本会議	委員長報告・採決・閉会



小松市イメージ
キャラクターカブッキー

読者の声をお寄せください

議会だよりをお読みいただいたご意見やご感想をお聞かせください。

右記QRコードを読み込んでいただき、「氏名」「連絡先」等必要事項を入力の上、お送りください。

小松市議会では、
令和8年熊本地震の災害義援金を
全議員から募り、8月17日に
熊本県へお送りいたしました。
被災地の一日も早い復旧・復興を
心よりお祈り申し上げます。

広告

サポートネット 専門家による無料相談会

日時●11月28日(土)・12月19日(土)・1月16日(土)
9時～11時30分
会場●小松商工会議所
問い合わせ先：担当　竹内　TEL 0761-22-9990



不動産鑑定士	弁護士	司法書士 行政書士	税理士 行政書士	弁護士	社会保険労務士	社会保険労務士	土地家屋調査士 行政書士
澤矢　豊伸	杉本　昌之	田中　一生	谷口　勇一	中西　祐一	畠中　遥	村井　佳恵	山崎　豊
TEL0761-21-1122	TEL0761-24-3633	TEL0761-48-7040	TEL0761-76-5503	TEL076-256-5413	TEL0761-75-7520	TEL0761-48-7770	TEL0761-20-3175

◆法律　◆人事・給与
◆債権回収　◆会社設立
◆多重債務　◆相続
◆完済過払　◆事業承継
◆税金　◆農地転用・開発行為
◆登記　◆事業計画
◆不動産評価　◆公的年金　等の

ご相談をお気軽に【秘密厳守】
私たちが相談に応じます。

〒923-8650　石川県小松市小馬出町91番地
TEL.0761-24-8138(直通) FAX.0761-23-3676